

ナウル語文法ノート ②

Notes on Nauruan Grammar Part 2

岡村 徹

Toru Okamura

公立小松大学

Komatsu University

いわゆるオーストロネシア系の諸言語では、他動詞的な意味を形態でもって表すのが一般的である。例えば、オーストロネシア諸語の一つ、トライ語の文法体系を引き継いだトク・ピシンには、他動詞接尾辞 *-im* がある。この点、意味的な視点から、自動詞と他動詞を区別する英語とは異なる。ただし、学校文法では、*look at* のように、前置詞が動詞に後続する場合、自動詞扱いをするという原則がある。つまり二項述語の *look* に *at* という格表示がなされることによって、自他を区別する。意味的には十分他動詞的ではあるが、他動性が高いとは言えないだろう。いわゆる原型的他動詞が持つ性質からは疎遠と言えよう。

ナウル語の *-eij* は、他動詞を表す接尾辞である（例 (1)～(3)）。下記の用例は全て、Rensh 編集の *Nauru Grammar* より引用したものである。

- | | |
|---------------------|---|
| (1) rian, to sing | rianeiji irian ion, to sing a song |
| (2) torer, to speak | a torereiji torerum, I say what you say |
| (3) inini, to sieve | inini-eiji, to sieve something |

自動詞に、接尾辞 *-i* が付くと、他動詞的な意味になるが、意味がわずかに異なってくる。例えば、例文 (4)～(6) がある。

- | | |
|------------------------|---------------------------------------|
| (4) ab, to beckon | abi, to beat |
| (5) raman, to stare | ramani, to scrutinize |
| (6) miow, to be afraid | miowi, to dislike a person or a thing |

角田 (1991:72-73) は、他動詞文の原型を定義したうえで、原型的他動詞には、「殺す」「壊す」「傷つける」「作る」「改良する」「増やす」「減らす」「動かす」「止める」「溶かす」「温める」

「隠す」「覆う」「与える」「送る」などを挙げている。いずれも、上記の動詞が、何らかの意味で変化を起こすことを根拠としている。そういう意味においては、例文(1)から(6)までのナウル語の動詞は、原型的他動詞ではない。例えば、例文(1)のように、何かを歌っただけで、対象に変化はもたらさない。同様に、例文(6)のように、誰かを、あるいは何かを嫌っただけで、対象には何ら変化をもたらさない。

また、角田(1991:71)が言うように、動詞は自動詞と他動詞に明確に二分することは出来ないという主張は筆者も正しいと考える。他動詞的なものから自動詞的なものまで、段階があり、中間的な動詞も存在するのである。意味の側面ばかりでなく、形の側面も考慮しなければならないが、別稿に譲りたい。

使役動詞についても、-eij が活用されるが、三つの形態的手法を有する。それは接頭辞と接尾辞を組み合わせることで表現される。それぞれ、o- .. eiji と ka- .. eiji と oka- の三つである。このうち、ka- .. eij の例として、次の例文(7)~(9)がある。

- | | |
|--|--|
| (7) kabaka, to cause to be bad | kabakaij, to cause a thing to be bad |
| (8) karig, to cause to come into being | karijeiji, to cause something to come into being |
| (9) kamogur, to cause to work | kamogureij, to cause to work on something |

語幹と不変化詞 en の間に、-i が接辞される、つまり接中辞として用いられる場合、それは it の意味とはほぼ同じである。例えば、例文(10)~(12)がある。オーストロネシア系の諸言語では、こういった接中辞は一般的で、例えば泉井によると、チャモロ語においては、受動形の構成に活発に参与するという(泉井 1975:55)。ただ、ナウル語は受動形の構成に接中辞は関与しない。そればかりか、受動形を表すのに、特別な形式は存在せず、e abi eo, *I have been chastised* は、*one beats me* のように表す(Rensh 1993:169)。他には所有格の語尾を活用して表現する場合がある。

- | | |
|-----------------------|--|
| (10) katuk, to strain | katug-i-en, now he has strained it |
| (11) namo, to fix up | namo-i-en, now he is fixing it up |
| (12) quor, to bind | quor-i-en, he has bound it, now he is binding it |

(つづく)

参考文献

泉井久之助 (1975) 『マライ・ポリネシア諸語』 東京：弘文堂

Rensch, K. (Ed.) (1993) *Nauru grammar*. Yarralumla (Australia): Embassy of the Federal Republic of Germany.

角田太作 (1991) 『世界の言語と日本語』 東京：くろしお出版